

タイで介護サービス開始へ ハワイ、ベトナムに続く海外展開

さくら介護グループ

居宅介護サービスをフランチャイズ（FC）展開するさくら介護グループ（中区大手町3-13-18、榊井伸二社長）は、福祉国家の形成を目指しているタイで介護サービス事業に乗り出す。11月28日付でバンコクに現地法人「Sakurakaigo Thailand Co., Ltd」（赤熊祐太社長）を設立。事業所も開設し、12月中旬に営業を始める。在留日本人や富裕層向けに、均質で管理体制の行き届いた日本式サービスを提供していく。

同社の海外展開は、2006年に米国ハワイ、12年にベトナムへ進出し、タイが3カ国目。タイでは直営が2、3店舗になった時点で、直営店を拠点にFC展開していく。日本語教師のタイ人女性をマネージャーに据え、現地スタッフの採用や、介護サービス利用者の開拓などを進めていく。年間120万人の日本人が訪れるといわれるタイは、長期滞在と永住を合わせ約5万人の日本人が在住。医療技術レベルも高く、日本語が通用する病院も多いという。日本の公的年金の受け取りや国民健康

保険の利用が可能だが、介護保険は適用されない。タイ政府が計画している各種福祉制度に関する法整備に備え、実費で介護サービスを利用できる在留日本人や富裕層向けに市場を開拓し、着実に実績と信用を築いていきたいとしている。

現在、同社の国内のサービス拠点は直営10カ所、FC220カ所に上る。FC加盟店に代わり、国民保険団体連合会に介護報酬を請求するレポート処理業務をはじめ、ヘルパーの指導やスケジューリング、売り上げなどを管理するほか、加盟店向けに研修制度を用意している。加盟店売り上げは14年3月期で50億円に達する見通しだ。